

# 九州 兼 喜

2016.1

No. 125

## 賀 2016 春



謹んで新年の  
ご祝詞を申し上げます

平成28年 元旦



# 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えになられましたこと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に多大なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬ御厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新年のご挨拶の中、大変恐縮ではございますが、野村相談役様の悲しいお知らせの報に接し、悲しみに耐えられません。汲めども尽きぬほど賜りました数々のご厚情に深く感謝するとともに、謹んで哀悼の意を表します。心よりご冥福をお祈りいたします。

また、東日本大震災が発生してまもなく5年が経とうとしております。清水建設様も復興にむけて大変なご尽力をなされていると思いますが、まだまだ復興は道半ばと聞いております。決してあの記憶を風化させてはなりません。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、世界各地で多発しましたテロの脅威や、中国の景気減速、また、ロシア・中国などによる軍事行為の活発化など、私どもの生活に甚大な影響を及ぼしかねない大変な問題が山積いたしました。

国内におきましても、安保法案の成立やTPPの大筋合意など、潮流が変わった一年となりました。また、企業の不祥事も多数ありました。食品への異物混入や自動車メーカーの不正、電気メーカーの決算改ざん、基礎工事会社によるデータ改ざんなど、他人事では済まされない問題も起こりました。新年にあたり、九州兼喜会会員一同、襟を正して、法令・品質を愚直に追求して参る所存であります。

又、マイナンバー制度の導入により、我々建設業に従事する者の請負形態・生活形態も劇的に変わるかもしれません。「生き残ることのできる生物の種族は最も優れた生態能力を持った種族ではなく、環境の変化に対応できる種族である」という言葉があります。各社共、最新情報に注視し、時代の変化に合わせて行かねばならないと思う次第であります。

そのような中、清水建設様は、建設業のリーダーカンパニーとして、社会保険加入率100%を目指し、掲げるだけでは無く、実際に加入に際しての費用を負担して頂けるという、ご英断をしていただきました。職人の処遇改善の為にここまでやってくださっています。我々専門工事業者はこのことを真摯に受け止め、何とかこのご恩を返さなければなりません。

各社、社員や協力会社の更なる処遇の改善を考え、若い人財が夢や希望をもって仕事に取り組むことが

九州兼喜会  
会長

篠森義晴



できるよう、トップが肝に銘じ、清水建設様のご要望に柔軟かつ的確にお答えできるよう体制を整えておかなければなりません。

さて、今年はりオデジャネイロで夏季オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界のトップアスリート達の熱戦を大変楽しみにしております。そして、次は東京です。随分先の話のような気分でしたが、もう4年後であります。東京をはじめ、関東の皆様は大変な4年間になることと存じます。特に、職人不足に対しては、どなたも大変憂慮しておられることと思います。

昨今、建設現場において、人手不足・職人不足とよく聞きますが、本当に全ての現場で人が集まっていないのでしょうか。私はそうは思いません。集まっている現場には、優秀な人材・職人が集まっているのです。

現場を例にしましたが、このことは会社も全く同じであると考えています。働く人達の事を一番に考え、周りの環境のせいにせず、問題に正面から向きあうトップのいる場所に人は集まると思います。若い人に、責任や権限を持たせ、それに見合った給与や休暇を与え、やりがいを感じさせる事ができれば必ずそこには人が集まります。

人が集まるのは素晴らしいことであると思います。人が集まる所には、更にたくさんの方が集まるものです。人が集まれば、素晴らしい人材が集まり、素晴らしい人財が集まればそこに知恵が集まります。だからそこには財産が集まります。

九州支店の調達部や建築部はいつもたくさんの人達が集まります。行きやすい、入りやすい場所です。大変素晴らしく思いますし、私共にとりまして大変有り難い環境であります。清水建設様に習って、多くの有能な人財や知恵が集まるよう、九州兼喜会もより明るく、笑顔の絶えない集団を目指して参る所存であります。

今年は申年です。よく「見える聞かざる言わざる」と言いますが、安全に対してはそういう訳にはいきません。しっかり現場を見て、皆の意見を良く聞き、注意すべき事は、会社や職種の垣根を越えてでも注意し合わなければなりません。慣れた頃に事故は起こります。猿も木から落ちるものです。全員一丸となって、決して墜落・転落などすることがないように、安全・安心な文化を築き、全現場から事故が去る事を心より祈念する次第であります。

我々九州兼喜会は、昨年以上に一枚岩となって、清水建設様の社業に貢献できるよう、精一杯努力する所存であります。何卒、今後ともご指導の程、お願い申し上げます。

皆様方にとりまして、2016年が素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。本年も、宜しく願い申し上げます。

# 年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店  
常務執行役員支店長

山 地 徹



新年明けましておめでとうございます。

兼喜会の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は一方ならぬご支援・ご協力をいただき、こころより感謝申し上げます。本年も、よろしく願い申し上げます。

さて、昨年の国内建設業界を振り返りますと、ここ数年の堅調な建設投資に支えられ明るい話題が多かったように感じております。しかしながら、新国立競技場の白紙撤回や杭工事のデータ偽装などの問題も起り、他業界でも多くの不祥事が露見したこともあって、コンプライアンスの重要性を再認識させられた一年でもあったような気がします。また、社会保険加入問題や長時間労働に対する対策も急がれるところ です。

そのような中、九州兼喜会の皆様と取り組んできた“西海道夢プロジェクト”も今年で四年目を迎えることとなります。この活動を通じて、兼喜会の皆様とは各所で深いコミュニケーションを取らせていただきました。昨年を振り返っても、総会・役員会などの定例会議のほかにも各地区の安全大会やボランティア活動に参加させていただいて交流を図り、地引網やフットサル・バレーボール・青年部の北海道視察といった仕事以外の場を共に過ごしたことも、良い機会となったと確信しております。今年も、より深く広くコミュニケーションの輪を広げていきたいと思っております。よろしく願い致します。

さらに、今年も九州兼喜会の皆様方と築き上げたこのコミュニケーションの土台の上に、強靱な柱を建て始めなければいけないと思っております。昨年の活動の中で特筆すべきは、やはり“第1回技能オリンピック”の開催ではないでしょうか。兼喜会の高工・鉄筋工の皆様の仕事に向かう熱い目と研ぎ澄まされた技能には感嘆させられました。今後さらに切磋琢磨する動機づけにも良い機会になったと考えています。申し上げるまでもなく、若年層の担い手確保・育成・技能伝承は建設産業界における最大の課題であります。今年12月には「富士教育訓練センター」の建替も完了します。このような動きの一環として、“技能オリンピック”を継続していきたいと思っております。今年も職種を変えて型枠大工・左官工などの熱き競い合いで如何でしょうか。良いものづくりの原点となる技能伝承に、今年も前向きに取り組んでいきましょう。

また、建設産業界全体の待遇改善にも取り組んでいくべき時が到来したとも感じています。社会保険加入問題もそのひとつでしょう。労働時間短縮の動きも始まっています。ご存知の通り弊社ではワークライフバランスの観点から労働時間短縮の施策を展開して

います。弊社社員に対して、自らの仕事の生産性をあげる工夫をしてノー残業デー・代休取得を徹底させ、残業時間を削減するような活動を展開しています。兼喜会の皆様にもご理解いただければ幸いです。今後はこの活動をさらに進展させ、いつの日か作業所の週休二日制に繋げていければと考えています。もちろん、そのためには改善しなければならないことが山ほどあります。建設現場におけるより一層の生産性向上も必要でしょうし、週休二日を前提とした工期を発注者の方々にご理解をいただく努力も必要でしょう。技能職の皆さんの賃金も現状のままでは前進しないと考えます。等々、一朝一夕には実現できないことが多々あります。ただ、今後も建設産業界がその役割を全うしていくためには、次の世代を担う人たちにとって夢や希望に満ち溢れ、魅力的で誇りの持てる業界に変わっていく必要があります。今が、そのチャンスではないでしょうか。“西海道夢プロジェクト”の活動のなかで、九州兼喜会の皆様とともにその第一歩を踏み出したいと思っております。新年ゆえ、会報の紙面をお借りして私の夢を語らせていただきました。ご容赦いただければ幸いです。

新年にあたり安全についても一言触れさせていただきます。残念ながら、平成26年度九州支店においては4日以上 の休業災害が9件も発生しました。今年度、平成27年度も9月・10月と続けて2件発生しています。また、清水建設全社、建設業界全体の安全成績も芳しくありません。さらには、重機の転倒災害により周辺にご迷惑をかける事例も発生しています。昨今の事故原因を探ってみると、不安全・不完全な状況に対する個々人の感性の不足が、その奥底に潜んでいるような気がしてなりません。そこで、ご存知の通り兼喜会の皆様のご協力をいただきながら、一人KYの徹底を推進しているところであります。一人KYの活動は徹底するのが非常に難しい活動だと思っておりますが、兼喜会のみならず防災協各社様が実に真面目に、それぞれに工夫をして推進していただいていると深く感謝しております。その場その場に合った個々の危険予知を日々の習慣にして、自分の身は自分で守る。一歩進んで、廻りの仲間の身も守る。一人KYの徹底で、まずは、年末年始労働災害防止強調運動の期間である1月15日までを、そして今年度いっぱい無事故無災害で乗り切りましょう。

結びになりますが、九州兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄を祈念し、併せて平成28年が皆様方にとって素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願い申し上げます。

# 第24回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部  
株式会社 田山大理石 田山 智章

平成27年11月19日(木)～20日(金)に東京京橋、清水建設本社2階シミズホールにおいて、清水建設全国連合兼喜会第24回後継者育成研修が開催され、九州支部より3名が参加致しました。

今回は清水建設様のご厚意により、研修会場として清水建設本社のシミズホールをお借りしての開催となりました。

普段なかなか訪れることのできない清水建設本社へ訪れることができ、気が引き締まる思いで参加させて頂きました。

初日は東京兼喜会青年部 多賀谷 充 部長の司会のもと、清水建設東京兼喜会 青木 茂 副会長より開会及び趣旨説明があり『構造的な人手不足、IT化、国際化といった急激な変革の波が押し寄せる中、意欲ある意志の高い若手リーダー達が全国より集い変革への対応、将来の展望を追求し将来の建設産業を支える若い力を涵養しようとの目的で開催するはこびとなった。』という説明と『本研修会において200年を超える清水建設の歴史と精神を体感し、また未来に向かって我々専門工事業者は何を求められているのか、皆さんと共に学びまして成長できる一歩となれば幸いである。』と挨拶を頂きました。

次いで、清水建設全国連合兼喜会会長 中橋 博次様より『今、我々建設業に携わる者としましては大きな問題をたくさん抱えている。例のリーマンショック以来、熟練の作業員の方々がリタイアし、それと同時に若い力が入ってこない大変厳しい状況。その逆の作用として、建設現場に年齢に関係なく経験の浅い作業員の参入してきている。そうした状況のなか、安全管理の問題・品質確保の問題が大きな課題である。また、平成29年度以降の社会保険の加入状況による問題で社会保険の加入を促進し、労務者の確保をしっかりとはかっていく必要がある。平成29年度までの1年半が正念場になる』と話されていました。弊社における現状としながらも、作業員の高齢化が進む中で若い人材の確保が急務であり、将来を見据えたうえで、待っているだけでなく積極的な人材確保への取り

組みが必要であるということを再認識し、早急な対策が必要であると感じました。また安全についても触れられ、『今年10月末現在の清水建設全社の成績として、死亡災害ゼロ・休業4日以上43件で、安全度数でも目標を若干上回っている。重篤災害が多発した昨年度に比べ良い成績となっているので、今後も気を緩めることなく地道に災害防止活動に取り組んでいきたいと考えている。』と話され、日頃の地道な取り組みが災害防止につながっていくということを再認識いたしました。

その後、清水建設様より3名の幹部の方々からご講話を頂きました。はじめに代表取締役副社長 建築事業本部長 寺田 修 様より、清水建設が取り組んでおられることとして、大きく三つのことについてご講話を頂きました。

## 1. 『建設業を取り巻く環境と現状』

### ・建設市場の現状

新築着工床面積は、我々に関係のある非住宅に関してリーマンショック以降仕事量は減少したが、減少した分はもどってきている。

### ・建設就労者の現状

建設業従事者は減少傾向にあり、3割が55歳以上と高齢化が進んでいる。29歳以下の若年労働者の比率も建設業においては10%と少なく、急激に減少している。高齢化が進み、若年労働者の建設業離れが進んでいるため、建設業従事者が減少している。

### ・大手建設会社の工事受注額の現状

リーマンショック後に比べ受注額は戻ってきているなか、住宅着工の方が減少していることもあり、それ以外の比率が高まっている。また工事の大型化や中小企業の減少などが進み、大手建設会社の比率も高まっている。ただし労働者数は、同じ受注額に比べ約1割減少している。

### ・建設資材価格の現状

2011年から比べると、木材など約1割資材価格が上がっている。

## 2. 『2020年を見据えた建設業の環境』

### • 今後5年間の建設市場

オリンピックまでは10兆円前後の建設需要が続くのではないかとの見込み。その後はリーマンショック以降ぐらいを想定しておく必要があると中期経営方針2014にて予測している。

### • サプライチェーンの強化

信頼性の高い施工体制の構築と建設業の担い手確保を狙いとして、サプライチェーンの強化をする。施工力に優れた専門業者が安定して受注できるように環境の整備をする。

重層下請け構造の改善に向けた取り組みの推進を行う。

### • ものづくり体制の見直し(原点回帰)

施工図中心の施工管理への原点回帰を目指す。新入社員に対して一年間のものづくりの教育を行っている。

## 3. 『2020年以降を見据えた施策』

### • 清水建設の基本方針として、

- ①体質改善と生産改革を行う。
- ②顧客満足度を上げて当社との信頼関係築く。
- ③オリンピック後を見据えた他のプロジェクトへの取り組み、営業活動、清水バリューの向上によって戦略的に受注をするために今から準備していく。

• 2020年以後の生産体制を考えていくうえで、量は増えない中で利益率を向上するために、構想としてBIM「ビルディング・インフォメーション・モデリング」という中で、設計から施工までのデータを一元化し共有することで生産性を高める。また施工方法についても、自動化することも生産性の向上に不可欠である。

• また一番の問題であるのは今後の従事者数の問題で、2014年から2025年までに127万人不足すると予測されている。従事者不足を解消するには、魅力ある建設業にするしかないということで、これまでの3Kから新3K「給料・休日・希望」というキーワードへと一新し、新規、女性の入職を図る。

まとめとして、いろいろな話の中で考え方を考えていこう。考えたことを行動に移そう。そういうことによって働き方を変えていくということを今からやっていくことが、2020年までにわれわれ建設業を取り巻く環境整備をしていくラストチャンス。オリンピックを含め、こういった盛り上がるような市場が出てくる可能性は低い。この機会に建設業をきちんと立て直していくことが我々の

切なる願いである。2020年までは仕事はあるが、我々にとってみれば正念場であるというふうに思っている。みなさんと気持ちを合わせて取り組んでいきたい。とのご講和を頂き、建設業界を取り巻く環境整備の重要性 必要性を真摯に感じ、清水建設と兼喜会との連携を深めることにより問題解決へと進んでいくことを感じました。

次に安全環境本部 専務執行役員本部長 白田 廣一様より安全と環境についてのご講話をいただきました。

安全に関しては、労働災害の発生状況を全産業と比較。27年度の全社の状況の説明。その中での特に去年の状況で墜落転落事故がなくなる。という内容について若干写真を交えての説明。

労働災害の発生状況は全体的に減少しているが、建設業が全産業における割合は変わっておらず全体の三割にのぼる。建設業に従事する人の数は全産業の8%なのに、死亡災害の数はその8%の建設業が全体の三割をもたらししている状況。清水建設での過去64年分くらいのデータの中で死亡災害0件という年は今までに一度もない。今年は初めてゼロにできる可能性があり、皆さんの力でこれが達成できれば清水建設始まって以来の歴史とこのことでした。この歴史的な偉業を成し遂げるためには、作業員一人一人が高い意識を持って取り組んでいかなければならないと感じました。

27年度安全スローガンである『安全は止める勇気と維持する努力、手順を守って安全作業』にあるが、なかなか止めることができないというのが現状。災害が起こった現場で後から話を聞くと、周りでは見えてることが多いので、危険な作業などを見かけたら声を出してほしいと言われました。

環境においては、建設副産物を取り巻く状況としまして

- ①建設廃棄物の排出状況
- ②不法投棄の状況
- ③フロン法改正
- ④清水建設の状況

ということを踏まえ、最終処分率というものを目標に掲げおおむね3~4%の範囲内であり、目標4%以下を毎年クリアしている。これは各作業所による分別が大きく作用しており今後とも目標をクリアしていくためには、作業所と業者が一体となった取り組みで建設副産物の適当な処理が重要であり必要不可欠であると話されました。

最後に、執行役員 調達・見積総合センター所長 三澤 正俊 様よりご講話を頂きました。

全国連合兼喜会と清水建設が一体となって、この激動の時期を乗り切るためにはということで建設業を取り巻く環境、そしてその環境に基づいて、建築事業本部調達見積総合センターとしてやっている活動の紹介がありました。

まず建設業を取り巻く環境ということで、建設業の立ち位置についてお話されました。GDPは全体の5.8%、就労者は8%で505万人というのが建設業の立ち位置。人員構成をほかの業種と比べると、55歳以上の就業者の割合は全産業での28%に比べ35%と高め。一方29歳以下の就業者の割合は全産業で17%なのに対し建設業は11%と低め。他産業に比べ高齢化 若手入職者の減が著しい産業である。

労働賃金というところで比べてみても、全産業が年収536万円なのに対し、製造業462万円、残念ながら建設業は409万円という非常に低レベルで推移している。

日建連の今後の予測では2025年までに建設技能労働者の127万人の不足になる。改善の対策として新規入職者の増で90万人、生産性の向上により35万人相当を補うというのが日建連が立てている目標。これを実現するための必要条件は魅力ある建設業への変身がどうしても必要になる。

建設業はこのような処遇とは裏腹に、非常に高い社会的存在意義を持つ産業であり、決して衰退させてはいけない産業である。ということで求められるのが、3Kから早く脱却して、新3Kへの変身が必要である。

また、清水建設は山積み活動というものを行っており、

- ①短期山積み活動
  - ②中・長期山積み活動
  - ③海外での製作に対して継続と定着
  - ④ボトルネックとなる業種の洗い出しとその対策の立案。
- こういった山積み活動を行ったうえで、最終的には清水の需要を極力早期に業者と共有し、お互いの山積み制度を高めて現場との工程変化のコミュニケーションを最低月一回は行い、急な工程変更を回避する。そして必要な時に必要なだけの需要と供給の関係を今後適正に維持していきたいということで、①～④の活動を行っている。

こうしたなか魅力ある建設業になるための絶対条件が、処遇改善の必要であり、それは社会保険を主とした福利厚生制度を充実させることと年収の向上である。

社会保険加入100%を目指すための軸は三つあり

- ・福利厚生制度の充実(所属企業が加入していること)
- ・年収の向上(個人の支払い能力が確保されていること)
- ・忘れてはいけないこと(国民の義務)

このことに向けた清水建設の取り組みとして平成27年10月1日より法定福利費を外出し明示した見積の提出を見積条件化し、精査・協議した上で加入100%に必要な法定福利費を見込み元下契約を締結し、実際の加入率にかかわらず全額支払う。としている。

社会保険未加入問題を含め、重層下請け構造の解消・建設業従事者の確保などの難題に対し、山積み活動などを通して、情報の共有・サプライチェーンの強化・信頼関係の構築を図ることで、清水建設と兼喜会とがより深く連携していき今後のさらなる発展につながっていくと実感いたしました。『2020年まで、そしてその後』という非常に難しい時代において、この数年間が建設業のステータスを確保する、最大の、そして最後のチャンスだと意識して、協力業者と清水建設とがベクトルを一つにし、“言うべきことを言う”“変えるべきことを変える”を意識して頑張りましょう!というお言葉を最後に頂き、“正念場”であるということ再認識致しました。

研修2日目は都内屈指の大現場でもある京橋二丁目西地区市街地再開発建設所の方で現場見学をさせて頂きました。現場事務所へと集合し八木所長様のあいさつの後、現場の概要や施工上の問題点を、映像を交えて説明して頂きました。その中でダブル先行床工法という工法で、工程を8.5か月も短縮することができたというお話を聞きとても驚きました。

現場の方ではまず最上階まで上がり、そこから順に階を下りながら現場の説明をして頂きました。その中で三機あるタワークレーンの土台部分のダメを残さないように工夫されていることや、中間免震構造説明などを聞き、清水建設の技術力の高さを実感することができました。

今回の研修に参加させて頂いて、将来の展望を見据えながら清水建設と兼喜会が連携を深めていくことでこれからの建設業を取り巻く環境の整備を図っていくことの重要性を再認識致しました。

最後になりましたが、今回のこのような貴重な機会を企画していただき、また参加させて頂く上で多大なご協力頂きました関係者の方々に深く感謝し厚く御礼を申し上げます。

福岡支部 千代島 剛史

平成27年10月2日(金)、清水建設(株)九州支店より九州支店長山田様ほか2名、九州兼喜会より篠森会長ほか3名、九州兼喜会青年部の各支部より33名、合計40名が参加し、九州兼喜会青年部秋の研修会を北海道にて開催させて頂きました。

まず初めに、北海道新千歳空港ロビーに集合し、清水建設(株)北海道支店様にて施工中の北海道新千歳空港改修現場を見学させて頂きました。北海道支店様に準備して頂きました空港メインビル内の会議室にて、現場の市川所長様より工事概要をご説明いただいた後、実際に改修工事を行われている現場を案内して頂きました。空港を通常利用している中での改修工事ということで、様々な創意工夫を取り入れながらも、大変な苦勞とともに現場を進められている様子が良くわかりました。作業員の入退場管理、持ち込み工具等の管理など、空港という特別な施設ならではの諸々の制限があるということを知り、特殊工事における日々の業務を進めることの難しさを感じ取ることができました。

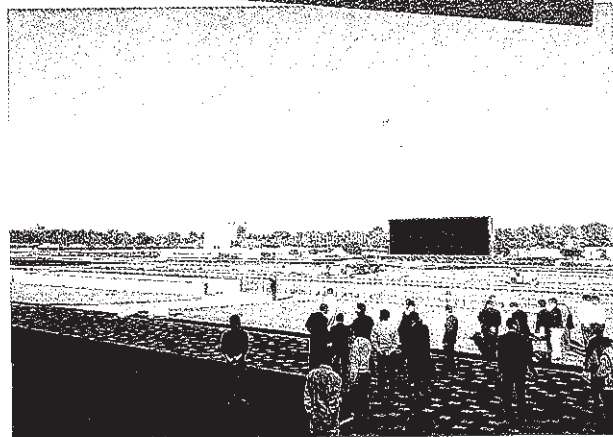
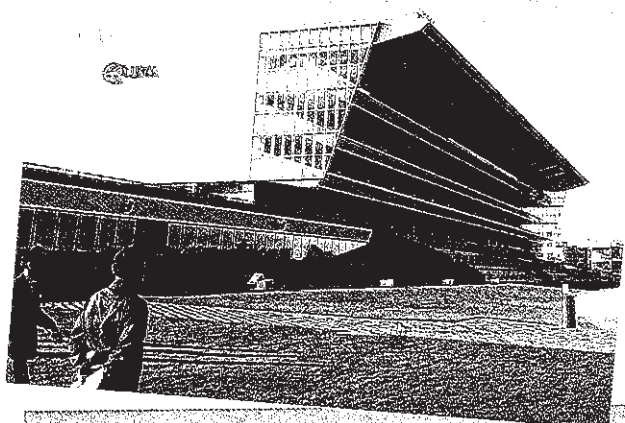
次に、先般清水建設(株)北海道支店様が施工され、既に竣工し開業されている札幌競馬場メインスタンドを見学させて頂きました。既に引渡しを終え開業されている施設にも関わらず特別にご案内をして頂き、お施主様の清水建設(株)様に対する信頼の厚さに感嘆致しました。普段はなかなか見る機会のないような特別なエリアまでご案内頂き、貴重な経験をさせていただいたことに参加者一同大変感激いたしました。また、いたるところ細部にまで趣向を凝らして仕上げられた内外観に、清水建設様の技術力と創造力の高さを改めて感じました。



その後、清水建設(株)北海道支店、北海道兼喜会の皆様と合同で、交流懇親会をサッポロビール園にて行いました。清水建設(株)北海道支店からは北海道支店長山田様ほか4名、北海道兼喜会からは櫻田会長ほか4名、同青年部からは長谷川部長ほか22名の皆様により手厚く歓迎していただき、総勢70名で盛大に盛り上がりとても楽しいひと時を過ごすことができました。

また研修に先立ち、北海道兼喜会青年部との意見交換会を北海道兼喜会青年部より長谷川部長をはじめ4名、九州兼喜会青年部の各支部より森部長ほか15名が参加して行いました。それぞれの地域における各職種の動向、景気状況、労務不足などの問題点、今後の兼喜会青年部の活動目標についてなど、有意義な意見交換を行うことができました。

最後に、今回の研修会に多大なご協力を頂きました関係者の皆様に対し深く感謝を申し上げます。



# 兼喜会議事録

## ○理事会

平成27年8月6日(木) 16:00～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 全国連合兼喜会支部長会議の件
3. 青年部
4. その他

## ○理事会

平成27年10月7日(水) 12:00～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 清水建設KMK合同ゴルフコンペの件
3. 青年部
4. その他

## ○理事会

平成27年11月10日(火) 12:00～

場 所 兼喜会事務所

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 九州総会の件
3. 清水建設全国連合兼喜会第57回定時総会（四国大会）の件
4. 青年部
5. その他

## ○全九州役員会

平成27年11月2日(月)

場 所 ホテルマリックス(宮崎)

### 【議題】

1. 全国連合支部長会議の件
2. 平成27年九州兼喜会、災害防止協議会中間報告の件
3. 瀬戸内オープンの件
4. 青年部
5. その他

## ○全九州役員会

平成27年12月1日(火)

場 所 ソラリア西鉄ホテル

### 【議題】

1. 12月度役員会の件
2. 清水建設全国連合兼喜会第57回定時総会（四国大会）の件
3. 平成28年度九州総会の件
4. その他

## ○西日本地区青年部意見交換会

平成27年8月21日(金)

場 所 松山全日空ホテル

## ○青年部秋の研修

平成27年10月2日(金)

場 所 北海道(新千歳空港・札幌競馬場他見学)

## 諸 行 事

### 支店との懇親地引網

- 8月1日(土)
- 初音旅館



### 清友会懇親会

- 11月25日(水) 18:00～
- ソラリア西鉄ホテル

発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル  
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社  
TEL 092-591-5110